

今更に之を勞働運動論ノ一章ヲ朗讀シ今日ノ勞働運動。日工業而  
 勞働者ノ之を農業勞働者ノ之を級級官官ニ一團ト爲リテ其本末ニ當テ  
 之を觀テ之を則チテプロシタリテ一輪ノ後トシテ初カ力テ之を一輪トシト  
 大體被テ之を事終テ之を勞働運動ノ先驅ト爲テ諸君ニ建テ其勞働者  
 中ノ一輪ト勿論。終極言諸君ニ大體ニ一輪トシテ人間的長如軌跡此等  
 三十名ノ爲メ一輪トシテ。務テ盡サレシト。後有言者ノ例トシテ之を降壇  
 加蓋豐盛ニシテ之ヲ  
 演ニ全回ノ勞働。突爾固ヨリ其最良佳友ニ對シ安心ニテ業務ニ從事ニ能  
 旨今ノ標ニ爲テ其本ノ希望即チ職首スルノ可ヤ。若シ職首志何人担  
 担。何等ノ實問題ニ任テ其ノ望ヲ望シテ答ハカリニ由ルニシテ之ヲ他  
 担ハシ今格ヲ無視シテ其解難ニ爲テ其ノ後ニ考ヘテ其ノ持テ之ヲ以テ金

三ノ萬有處理スル事他。三百日分ニテ處理スルコト。意味ニテ提出  
 セシラニシテ。後テ三百日分ヲ要スルコト。非ス。又豫期ニ爲シ居テ之ヲ要リ只横  
 暴ニ態度ヲ取テ吾人ノ前ニ謝罪スルコト許サシメ。

此ノ意味ニ於テ團體交渉權ノ確認ヲ要求セシメリ。即チ組合ヲ認メシ  
 クナリサレト今時ノ日本ノ状態ニ於テ殊ニ住友ノ身ヲ據ニ對シ此ノ權利ヲ  
 要スルニ必ズ容シテ之ヲ信シ難シ。益々口容シテハハルガ確カキ然レドモ  
 タトヒ破ケトモ。此ノ運動リ日本勞働運動ニツキ頭一歩ヲ進ムルコトニ  
 殆君リ或レ一週間休カ又レ一月後カ未ク知レハモ其協敗ヲ期シテモ日取後  
 三初級ハレニ事ナリ。

大會概観  
 會合概観  
 演説概観  
 協調會大坂支所